ふりがな　　しおじ　えつろう

氏　名　　**塩路　悦朗**

1. 学歴

1987 年　3 月　東京大学経済学部卒業

1987 年　4 月　東京大学大学院経済学研究科第二種博士課程入学

1990 年 10 月　イェール大学（米国）大学院経済学部博士課程入学

1995 年　5 月　イェール大学（米国）大学院経済学部博士課程修了（Ph. D. in Economics）

2. 職歴・研究歴

1994 年　9 月　ポンペウ・ファブラ大学（スペイン）経済学部助教授

1997 年 10 月　横浜国立大学経済学部助教授

2000 年 10 月　デューク大学（アメリカ）において在外研究（客員研究員，2001 年 4 月まで）

2002 年　4 月　横浜国立大学大学院国際社会科学研究科助教授

2006 年　4 月　一橋大学大学院経済学研究科助教授

2007 年　4 月　一橋大学大学院経済学研究科准教授

2007 年 10 月　一橋大学大学院経済学研究科教授

2011 年　9 月　コロンビア大学（アメリカ）において長期出張（客員研究員，2012 年 9 月まで）

3. 学内教育活動

A. 担当講義名

（a）学部学生向け

基礎マクロ経済学，マクロ経済学

（b）大学院

上級マクロ経済学，中級マクロ経済学，金融経済論Ⅰ，ワークショップ／リサーチワークショップ（マクロ・金融）

B. ゼミナール

学部後期，大学院

C. 講義およびゼミナールの指導方針

学部 300 番台のマクロ経済学の講義においては，現代的なマクロ経済学の中核をなす経済成長理論について深く学ぶことを目的とする。

中級マクロ経済学の講義においては，動学的なマクロ経済学のエッセンスを深く理解することを目的とすると同時に，現代日本経済に関わる実証研究上のテーマについても充分な時間を割く。

上級マクロ経済学の講義においては，動学的なマクロ経済学の数式展開を充分に理解することを主眼としつつ，これら理論の背後にある経済学的ロジックにも目配りする。

金融経済論Ⅰの講義においては，より進んで，動学的なマクロ経済学のパソコンによるシミュレーションが可能となることまでを目標とする。

4. 主な研究テーマ

日本のマクロ経済（時系列分析手法を応用した日本経済の実証分析，新しい開放マクロ経済学の理論の日本経済への応用，為替レート変動の国内物価への転嫁，ミクロデータを用いた家計の資産選択の分析）

5. 研究活動

A. 業績

（a）著書・編著

『経済動向指標の再検討』（経済分析 政策研究の視点シリーズ 19）美添泰人・大平純彦・塩路悦朗・勝浦正樹・元山斉・高瀬浩二・大西俊郎・沢田章・青木周平・北岡智哉・芦沢理恵・前島秀人著，内閣府経済社会総合研究所，2001 年 3 月，208 頁。

『景気指標の新しい動向』（経済分析第 166 号）美添泰人・大平純彦・塩路悦朗・勝浦正樹・元山斉・大西俊郎・沢田章・木村順治・児玉泰明著，内閣府経済社会総合研究所，2003 年 2 月，286 頁。

『ベーシック経済学 一次につながる基礎固め』 古沢泰治との共著，有斐閣アルマ，2012 年 12 月，456 頁。

（b）論文（査読つき論文には*）

「戦前日本経済のマクロ分析」（吉川洋氏との共著）吉川洋・岡崎哲二編『経済理論への歴史的パースペクティブ』東京大学出版会，第 6 章，1990 年，153-180 頁。

Regional Growth and Migration, Ph. D. thesis, Yale University, 1995.

"Convergence in Output per Capita and Public Capital in Japan： Evidence from the Corrected LSDV Method,"『エコノミア』第 49 巻，第 3･4 号，1999 年 2 月，33-48 頁。

「日本経済の長期的展望と社会資本」『ESP』No. 325，1999 年 5 月，23-27 頁。

* "Identifying Monetary Policy Shocks in Japan," *Journal of the Japanese and International Economies* 14, pp. 22-42 (2000), Academic Press.

「日本の地域所得の収束と社会資本」吉川洋・大瀧雅之編『循環と成長のマクロ経済学』東京大学出版会，第 8 章，2000 年。

「社会資本の生産性効果に非線形性はあるか？」『エコノミック・リサーチ』No. 9，2000 年 3 月，35-41 頁。

「クロス・カントリー・データによる経済成長の分析：サーベイ」『フィナンシャル・レビュー』No. 54，2000 年，42-67 頁。

* "Composition Effect of Migration and Regional Growth in Japan," *Journal of the Japanese and International Economies* 15, pp. 29-49 (2001), Academic Press.

* "Public Capital and Economic Growth： a Convergence Approach," *Journal of Economic Growth* 6, pp. 205-227 (2001), Kluwer Publishers.

「経済成長の源泉としての社会資本の役割は終わったか」『社會科學研究』（東京大学）第 52 巻 4 号，2001 年，53-68 頁。

* "Initial Values and Income Convergence: Do "the Poor Stay Poor"?" *Review of Economics and Statistics* 86 (1), pp. 444-446 (2004).

「日本における技術的ショックと総労働時間：新しい VAR アプローチによる分析」（R. Anton Braun 氏との共著）『経済研究』（一橋大学）Vol. 55，No. 4，2004 年 10 月，289-298 頁。

* "Term Structure of Interest Rates and Monetary Policy in Japan," (joint with R. Anton Braun), *Journal of Money, Credit, and Banking* 38 (1), pp. 141-162 (2006).

「金融不安・低金利と通貨需要：「家計の金融資産に関する世論調査」を用いた分析」（藤木裕氏との共著）『金融研究』24（4），2005 年 12 月，1-50 頁。

「インボイス通貨とバスケット・ペッグ制度」福田慎一・小川英治編『国際金融システムの制度設計：通貨危機後の東アジアへの教訓』東京大学出版会，2006 年 2 月。

"Estimating urban agglomeration economies for Japanese metropolitan areas： is Tokyo too large?" (joint with Yoshitsugu Kanemoto, Toru Kitagawa and Hiroshi Saito), Chapter 16 of *GIS-based Studies in the Humanities and Social Sciences*, Taylor & Francis Group, LLC (edited by Atsuyuki Okabe), January 2006.

* "Monetary policy and economic activity in Japan, Korea and the United States," (joint with R. Anton Braun), *Seoul Journal of Economics* 19(1) (2006).

* "Invoicing currency and the optimal basket peg for East Asia: analysis using a new open economy macroeconomic model," *Journal of the Japanese and International Economies* 20 (4) , pp. 569-589 (2006).

「東アジア内の戦略的相互依存とバスケット通貨制度：人民元改革と東アジア通貨の将来」伊藤隆敏・小川英治・清水順子編『東アジア・バスケット通貨の経済分析』東洋経済新報社，2007 年。

「投資ショックと日本の景気変動」（R. Anton Braun 氏との共著）林文夫編『経済停滞の原因と制度（経済制度の実証分析と設計）』勁草書房，第 5 章，2007 年。

「マクロ経済学は「失われた 10 年」から何を学んだか」（チャールズ・ユウジ・ホリオカ，伊藤隆敏，岩本康志，大竹文夫，林文夫との共著）市村・伊藤・小川・二神編『現代経済学の潮流 2007』東洋経済新報社，2007 年。

「社会資本の生産力効果の非線形性：大都市圏データによる再検証」大瀧雅之編『平成不況：政治経済学的アプローチ』東京大学出版会，2008 年。

「生産性変動と1990 年代以降の日本経済」深尾京司編『バブル／デフレ期の日本経済と経済政策：マクロ経済と産業構造』慶應義塾大学出版会，2009 年，359-386 頁。

*「類別名目実効為替レート指標の構築とパススルーの再検証」（内野泰助との共著）『経済研究』（一橋大学）Vol.61, No.1，2010 年，47-67 頁。

* "Pass-Through of Oil Prices to Japanese Domestic Prices, " (joint with Taisuke Uchino), in Takatoshi Ito and Andrew Rose eds., *Commodity Prices and Markets*, University of Chicago Press, pp. 155-189 (2011).

* "Fiscal policy in a New Keynesian Overlapping Generations Model of a Small Open Economy, " (joint with Vu Tuan Khai and Hiroko Takeuchi) 『経済研究』（一橋大学），Vol.62, No.1, 2011 年，30-43 頁。

「為替レートパススルー率の推移ー時変係数 VAR による再検証ー」『フィナンシャル・レビュー』，No.106，2011 年，69-88 頁。

* "Physical capital accumulation in Asia 12: Past trends and future projections, " (joint with Tuan Khai Vu) *Japan and the World Economy*, 24(2), pp.138-149 (2012).

"The Evolution of the Exchange Rate Pass-Through in Japan: A Re-evaluation Based on Time-Varying Parameter VARs, " *Public Policy Review*, 8(1), 67-92 (2012).

*「資本蓄積・資本破壊と公的投資の生産性について:経済成長モデルによる検証」 大垣 昌夫， 小西 秀樹，田渕 隆俊， 小川 一夫 編『現代経済学の潮流 2012』 東洋経済新報社（2012 年 7 月）第 4 章，93-116 頁。

「非伝統的金融政策の評価―パネル討論 2」（雨宮正佳，岩本康志，植田和男，本多佑三との共著）大垣 昌夫， 小西 秀樹， 田渕 隆俊， 小川 一夫 編『現代経済学の潮流 2012』 東洋経済新報社（2012 年 7 月）第 7 章，193-235 頁。

"The Bubble Burst and Stagnation of Japan", Randall E. Parker and Robert M. Whaples eds., *The Routledge Handbook of Major Events in Economic History (Routledge International Handbooks)* , 2013 年 1 月，第 27 章。

（c）翻訳

J. A. フレンケル・A. ラジン著『財政政策と世界経済』河合正弘監訳，千明誠・村瀬英彰・塩路悦朗・今井晋・杵渕美智子訳，HBJ 出版局，1990 年（原題 Fiscal Policies and the World Economy, MIT Press, 1987 年）。

（d）その他

「不確実性の増大と流動性資産需要：動学的一般均衡モデルによる分析」日本銀行ワーキングペーパーシリーズ No.09-J-1，2009 年 1 月。

「為替レートと原油価格変動のパススルーは変化したか」（内野泰助との共著）日本銀行ワーキングペーパーシリーズ No.09-J-8，2009 年 11 月。

「部門間資源配分と「生産性基準」：4 つの留意点」日本銀行ワーキングペーパーシリーズ No.10-J-4，2010 年 3 月。

「為替レートパススルー率の推移―時変係数 VAR による再検証」RIETI ディスカッションペーパー 10-J-055，2010 年 11 月。

「外的ショックと日本の景気変動：自動車産業における"Great Trade Collapse"の実証分析（内野泰助との共著）日本銀行ワーキングペーパーシリーズ No.11-J-1，2011 年 1 月。

「新興国企業の台頭と為替パススルー：双方寡占モデルによる考察と時系列データによる検証」（内野泰助との共著）日本銀行ワーキングペーパーシリーズ No.11-J-6，2011 年 9 月。

"External Shocks and Japanese Business Cycles: Impact of the "Great Trade Collapse" on the Automobile Industry" (joint with Taisuke Uchino), Center on Japanese Economy and Business (Columbia University) Working Paper Series No. 300, April 2012.

"Aging and Household Stockholdings: Evidence from Japanese Household Survey Data" (joint with Hiroshi Fujiki and Naohisa Hirakata), Institute of Monetary and Economic Studies Discussion Paper 2012-E-17, November 2012.

B. 最近の研究活動

（a）国内外学会発表（基調報告・招待講演には*）

「不確実性の増大と流動性資産需要：動学的一般均衡モデルによる分析」慶応木曜研究会（2008 年 7 月 24 日）

同論文，東北大学現代経済学研究会（2008 年 10 月 16 日）

"Uncertainty shocks and financial intermediation in a dynamic general equilibrium model: a Markovian Jump Linear Quadratic Approach," Macroeconomics Workshop（2009 年 4 月 9 日，東京大学）

"Shocks and Incomplete Exchange Rate Pass-through in Japan: Evidence from an Open Economy DSGE Model,"（Vu Tuan Khai, Hiroko Takeuchi との共著）2009 Far East and South Asia Meeting of the Econometric Society（2009 年 8 月 4 日，東京）報告

"Uncertainty shocks and financial intermediation in a dynamic general equilibrium model: a Markovian Jump

Linear Quadratic Approach," European Economic Association Summer Meeting（2009 年 8 月 27 日，バルセロナ，Universitat Pompeu Fabra）

* "Effects of External and Fiscal Policy Shocks in Japan: Evidence from an Open Economy DSGE Model with Partial Exchange Rate Pass-through," Yonsei Macroeconomics Conference（2010 年 3 月 18 日，ソウル，延世大学）

"Pass-Through of Oil Prices to Japanese Domestic Prices,"（joint with Taisuke Uchino）日本経済学会春季大会（2010 年 6 月 6 日，千葉大学）

"Projection of Investment and Capital Stock for Asia,"（Vu Tuan Khai との共著）Finalization Workshop: Long-term projections of Asian GDP and Trade, Asian Development Bank and the Chinese University of Hong Kong（2010 年 7 月 8 日，香港，Chinese University of Hong Kong）

「開放経済ニューケインジアンモデルを用いた政策効果の評価—可能性と限界」日本金融学会秋季大会パネルディスカッション「国際金融理論の新潮流—開放型ニューケインジアンモデルの可能性」（2010 年 9 月 26 日，神戸大学）

*「災害後における公共投資の生産性効果：成長モデルによる分析」日本経済学会 2011 年度秋季大会特別報告（2011 年 10 月 29 日，筑波大学）

"External Shocks and Japanese Business Cycles: Impact of the "Great Trade Collapse" on the Japanese Automobile Industry" (joint with Taisuke Uchino) Japan Economic Seminar（2012 年 2 月 24 日，ニューヨーク，コロンビア大学）.

"Effects of public investment after massive capital destruction in a growth model with a Stone-Geary technology" Triangle Dynamic Macro Workshop（2012 年 3 月 16 日，ダーラム，デューク大学）.

"Elderly households' portfolio choice in Japan: evidence from Nikkei RADAR 2004-2006" Center on Japanese Economy and Business, Visiting Faculty Seminar（2012 年 3 月 27 日，ニューヨーク，コロンビア大学）.

"Pass-through in a two country model with bilateral oligopoly" (joint with Taisuke Uchino) Monetary Economics Colloquium（2012 年 4 月 16 日，ニューヨーク，コロンビア大学）.

"External Shocks and Japanese Business Cycles: Impact of the "Great Trade Collapse" on the Japanese Automobile Industry" (joint with Taisuke Uchino) 2012 Midwest Macroeconomics Meetings（2012 年 5 月 13 日，サウスベンド，ノートルダム大学）.

同上 Midwest International Trade Conference, Spring 2012（2012 年 5 月 19 日，ブルーミントン，インディアナ大学）.

"Pass-through in a two country model with bilateral oligopoly" Federal Reserve Bank of Atlanta Seminar（2012 年 6 月 8 日，アトランタ，アトランタ連銀）.

"Time varying effects of public investment and a Stone-Geary production technology" Indiana University Seminar（2012 年 8 月 30 日，ブルーミントン，インディアナ大学）.

"Export shares, import shares, and exchange rate pass-through" International Trade Colloquium（2012 年 9 月 5 日，ニューヨーク，コロンビア大学）.

同上 University of Colorado Seminar（2012 年 9 月 7 日，ボルダー，コロラド大学）.

「新興国企業の台頭と為替パススルー：双方寡占モデルによる考察と時系列データによる検証」（内野泰助との共著）日本経済学会 2012 年度秋季大会（2012 年 10 月 8 日，九州産業大学）

"Time varying effects of public investment and a Stone-Geary production technology" Western Economic Association International 10th Biennial Pacific Rim Conference（2013 年 3 月 14 日-17 日，慶應義塾大

学).

（b）国内研究プロジェクト

学術創成研究「日本経済の物価変動ダイナミクスの解明：ミクロとマクロの統合アプローチ」2006 － 2011 年度，代表者 渡辺努

グローバル COE プログラム「社会科学の高度統計・実証分析拠点構築」2008－2012 年度，代表者 深尾京司

科学研究費補助金基盤研究（C）「不確実性の増大，金融仲介とマクロ経済政策」2009 － 2011 年度，代表者 塩路悦朗

21 世紀財団学術奨励金「人口減少と日本の経済成長・経済政策」2010－2013 年度，代表者 二神孝一

科学研究費補助金基盤研究（A）「金融危機下のマクロ経済政策の計量分析」2010－2012 年度，代表者 渡部敏明

科学研究費補助金基盤（C）「大災害後における公共投資のマクロ経済効果」2012 － 2014 年度，代表者 塩路悦朗

科学研究費補助金基盤研究（S）「長期デフレの解明」2012－2016 年度，代表者 渡辺努

科学研究費補助金若手研究（S）「日次マーケティングデータに基づく家計消費・労働供給の分析」2011－2013 年度，代表者 阿部修人

（d）研究集会オーガナイズ

国際交流セミナー，Gerhard Glomm 氏（インディアナ大学），2008 年 6 月 30 日，一橋大学にて開催。

第 10 回マクロ・コンファレンス（チャールズ・ユウジ・ホリオカ，櫻川昌哉との共同），2008 年 12 月 6－7 日，一橋大学 ICS にて開催。

第 1 回冬季マクロ経済学研究会（齊藤誠他との共同），2009 年 2 月 27 日 －3 月 1 日，湘南国際村にて開催。

第 11 回マクロ・コンファレンス（チャールズ・ユウジ・ホリオカ，櫻川昌哉との共同），2009 年 12 月 22－23 日，大阪大学万博オフィスにて開催。

第 2 回冬季マクロ経済学研究会（齊藤誠他との共同），2010 年 2 月 27－28 日，琵琶湖リゾートクラブにて開催。

第 12 回マクロ・コンファレンス（チャールズ・ユウジ・ホリオカ，櫻川昌哉との共同），2010 年 12 月 18－19 日，一橋大学 ICS にて開催。

「大震災・人口減少と経済理論・経済政策」コンファレンス（二神孝一，齊藤誠，福田慎一，柴田章久，今井亮一との共同），2011 年 8 月 22－23 日，九州大学国際ホールにて開催。

第 14 回マクロ・コンファレンス（チャールズ・ユウジ・ホリオカ，渡辺努，阿部修人，小川一夫，青木浩介との共同），2012 年 12 月 8－9 日，ホテル阪急エキスポパーク（大阪）にて開催。

C. 受賞

APFA/PACAP/FMA Finance conference（2002 年 7 月 14 － 17 日）Best Paper Award（対象論文："How are macroeconomic risks priced in the Japanese asset market?" R. Anton Braun 氏との共著）

6. 学内行政

（b）学内委員会

学部教育専門委員（2008 年 4 月 － 2010 年 3 月）

学生委員（2008 年 4 月 － 2010 年 3 月）

オープンキャンパス委員（2009 年 4 月 － 2010 年 3 月）
評価委員（2010 年 4 月 － 2011 年 9 月）
研究者データベースシステム仕様策定委員会（2010 年 7 月 － 2011 年 9 月）
大学院教育専門委員（2012 年 12 月 － ）

7. 学外活動

（a）他大学講師等

日本銀行「理論研修」講師，1998 年 － 2010 年 8 月（初級マクロ経済学）
東京大学公共政策大学院非常勤講師 2011 年度 " Development Economics: Macroeconomic Approach"
ペース大学（米国ニューヨーク州）2012 年 7 月 30 日 "Japanese Approaches to Management and Marketing"（MBA コース）ゲスト講師

（b）所属学会および学術活動

Econometric Society
日本経済学会
公益財団法人　東京経済研究センター（TCER）
統計研究会金融班　副査

（d）その他

「金融危機に関する公開討論会」2008 年 11 月 19 日，場所：一橋大学兼松講堂，パネリスト：小川英治（商学研究科教授），齊藤誠（経済学研究科教授），塩路悦朗（経済学研究科教授），前原康宏（国際・公共政策大学院教授），渡部敏明（経済研究所教授），コーディネーター：北村行伸（経済研究所教授）。
関西アカデミア・第 3 回公開討論会「金融危機から経済危機へ―景気の行方と政策対応」2009 年 3 月 7 日，場所：ザ・フェニックスホール（大阪），齊藤誠（経済学研究科教授），塩路悦朗（経済学研究科教授），川口大司（経済学研究科准教授），武田真彦（経済学研究科教授），コーディネーター：北村行伸（経済研究所教授）。
2009 年度一橋祭における経済学研究会主催討論会。
TCER セミナー2010 年 1 月。
国際交流基金日米センター「米国国際関係専攻大学院生招へい」プログラムの特別講義，東京，日米センター，2011 年 8 月 16 日
JSPS/USJI Joint Event "Risk Management – From Natural Disaster to Economy" 講師 ワシントン，コスモスクラブ，2012 年 3 月 9 日
日本学術会議「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議　ー災害復興とリスク対応のための知ー」講師，東京，日本学術会議講堂，2013 年 1 月 17 日

8. 官公庁等各種審議会・委員会等における活動

経済産業研究所，バスケット通貨研究プロジェクト研究委員，2004 年 12 月 －
日本銀行調査統計局アドバイザー，2007 年 4 月 － 2011 年 8 月
統計審議会，専門委員，2007 年 7－9 月，2008 年 5－7 月
日本学術会議経済学委員会，数量的経済・政策分析分科会，2009 年 6 月 －

国際協力銀行外国審査部アドバイザー，2009 年 9 月 － 2011 年 3 月（不定期）

9. 一般的言論活動

「最近のマクロ経済学：接近する古典派とニュー・ケインジアン」『エコノミスト』2008 年 9 月 9 日号。

「マクロモデル分析の新潮流」『日本経済新聞』やさしい経済学，2010 年 10 月 15 日 。

「復興への経済戦略」シリーズ（全 25 回）『日本経済新聞』ゼミナール 2011 年 7 月 19 日 － 8 月 23 日（まとめ役，伊藤隆敏，福田慎一など共著者多数）